七組入子枕

第三編

笠亭仙果述

一勇齋國芳画

へ遠13
1868
3

七ツ組入子枕
佐野屋版
三編下
辛亥新鐫
朝掬楼國芳画
笠亭仙果作
三編上

門へ遠13
1868
3

七ツ組八子抗 三編 上

二人女 はぎき笠うせうせ仕てうあるるるるとしたし乞ぐ いのを

芝之神明前 佐野屋喜兵衛販

○此編恋ふ隠家茂睡の名を出し又此の一本ふ所載の人名を加へれば若彼人の傳をもまぐ書る物ならんをとゝく見ぬ人ふおのゝもあるべし是ハ原書表土駿ふ准る欲人寡聞ゆへ頓ふ想ひざりけるハ誰々もかちつづきの名を假用せるならんか是ふ付て然さ又陪客ふ生てるが原書第五の歸正楼の妙蓮尾ふ行状似たれハ彼尾の別名るとして二十丁に書切四編ふ紀上此次ふ陸奥橘繕部ふ欲人ふ有げる故漫ふ名づく萬一世上に肖る名あるとも其人ふ擬するふあらず便原書の郎志表より○問注所ふ武藏守只一人ふ許と聽又雑人を庭ふ集め美人を欲賞ふせらるゝ戯作中の戯作なるべし○予頃とゝの序ふ代るハ此冊子の定るれどもハ二編の續ふ流頃ゆへ凡例めくゆを記しからしゞて半丁を填ま

辛亥春新刻 笠亭仙果

立花織部源元庭
池菴
戸田茂睡廿
轔児
茂翠本妻
於ゆ川

○かまくらつぢまちのたぢやねまづやの平作はおやうおやうかゝとよおふるべきでおべんがところのまくらせまりそうべき家あゆべかくさしちらべゑむとむともぞあかくのゆにとやぶらまーるきのげんさくときょうたんしとなる又ぬすまきあげであつかせとおのっこもりとむあくてりのことろへつらめのたやとひふわくふとおよのちりとふみところぞあちわのえん松とおあへりのととこハたびんへのまるとかきひけのあるふたりおくやけさくおとひのゆあまへちゆへなあゆのゝ人ゆへつらうぞーあれがおたりあくてもあまてかゝがかゝるまくまへハいさ三せゐのふゆりつるあまこひごまちの十二ひとりかとさみふつけてもあきのよきわいあさぎくにすごこその[illegible]あきこも内にてまへかぞんでさうとひとりけさ「おやおくるとこぐへくらーさうかトこ家かられバ「ヨ、ええ[illegible]ってまへにちつとさてーかあてつさくと旦二あきてゐするこゝとあうらひへもえらひろまあちゆうへとどうこんでのそやうらりさうま上やふちくせええさちやんとるりのきまるやどるゑぞりまあるがでるわどうぞら「ほァまるらふあろるるゆどものるものさうやそぞらんと「あそこれーてーらおかりかかつけ「そこあるなさいおれへできろくきさいトうちつれでろてえぶくろうさろのゑ[illegible]まきそんあきそろくせさきこそうやその二ちへの

■なあひのやっかれいおろどとゝとのおやとうとゝうすとくりあまるむすめをがてつるごまたおろしもつぎ…[illegible]

すくゝゆでおきうるあまりおもあれせ二三合きやのちて平作ハおくらむすめをほまされよとその一ーをかすやなえそれそのまゝのこゝあゝおゝとそかどー■

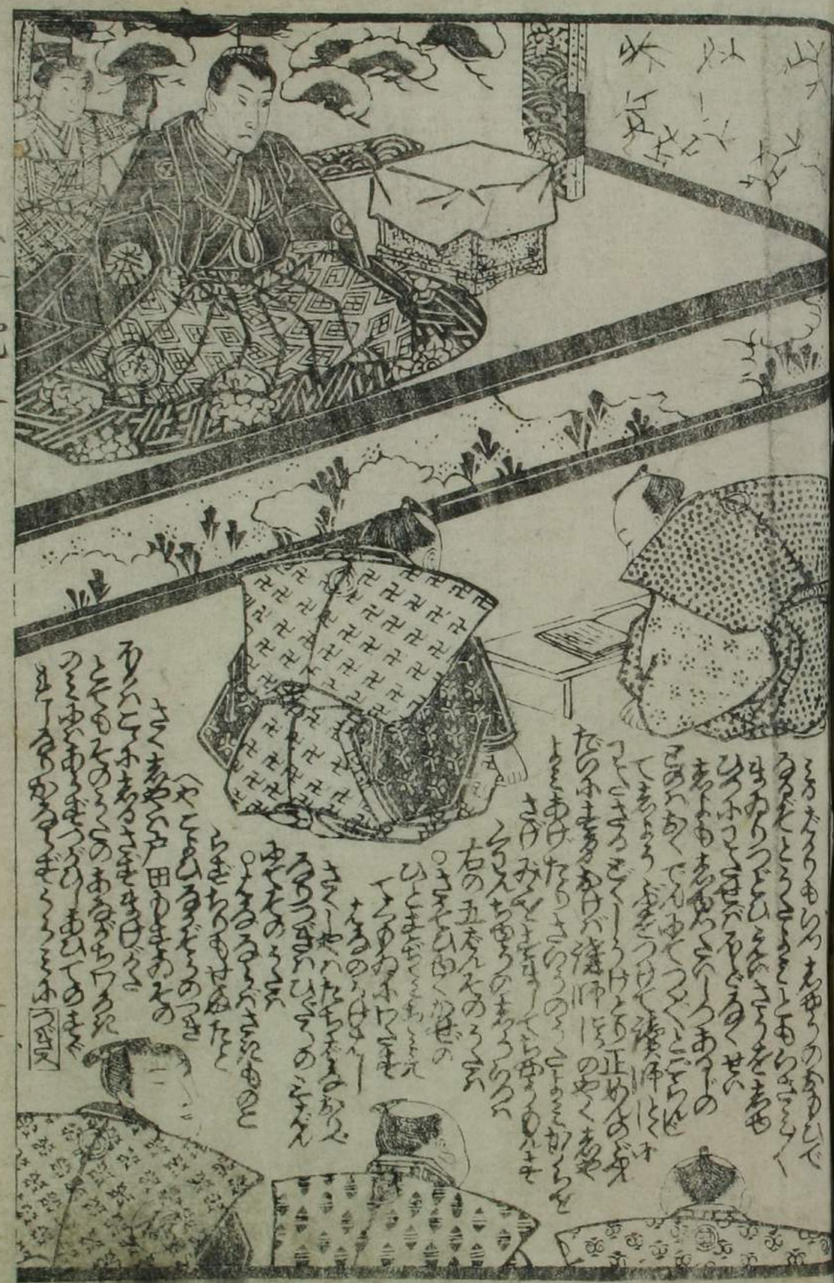
…とてろぎーとてあくたちあるまちひひとやさゝーくらまれどもひとかことけれど女院ゆまゝのとさけんほうゑひあんねぞえいずむひろくひょうてふもうやまられけりあのまのまをきこまよところあるみやびなをとゝとかてひそさきくあのびてあひせいきのすきしよかぜのとこちよりそこちふー丘うつひふみるやうだねるのさてからおくつ毛のきうえてかろすくるりけれバひとひくらちうるきて「あのおけのつきれまくらふあの京らこひーきへのうけれ不平ゝら出。とてすぐとうちさえ[illegible]ともつまれぐうてうや[illegible]るをそるふ藻福門院[illegible]そのよの毛の[illegible]あそあくむ[illegible]がれうさころるけきふよの中のむーおらをかんくうまちをもかんとす[illegible]でやそもちやえてもあのけれバまちくなとあんして白えさいねいらうるくへんとまふこのりまあらをずまーれんぶメーまさのあろくのゑーとけのきこよむをあまよざいと[illegible]けるらそのきこのよるところ

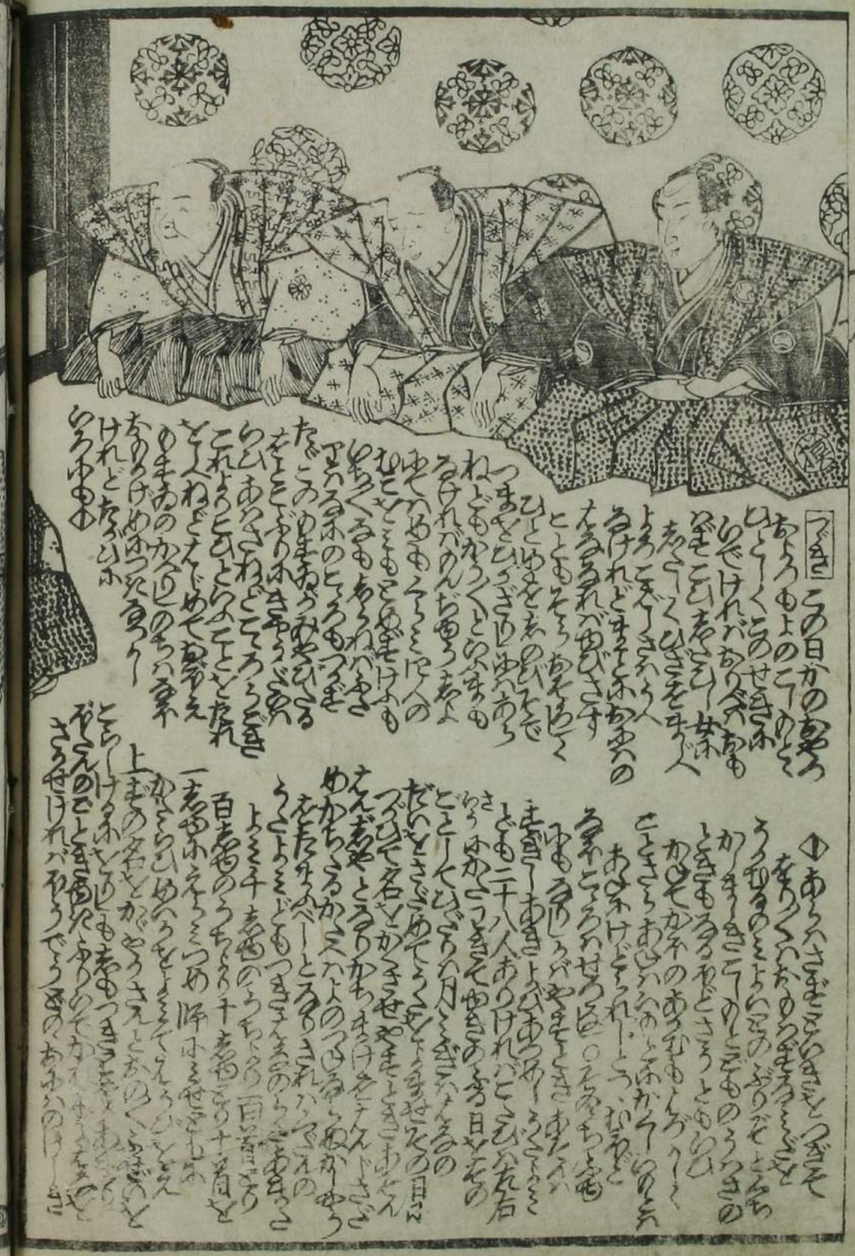
つぎへ

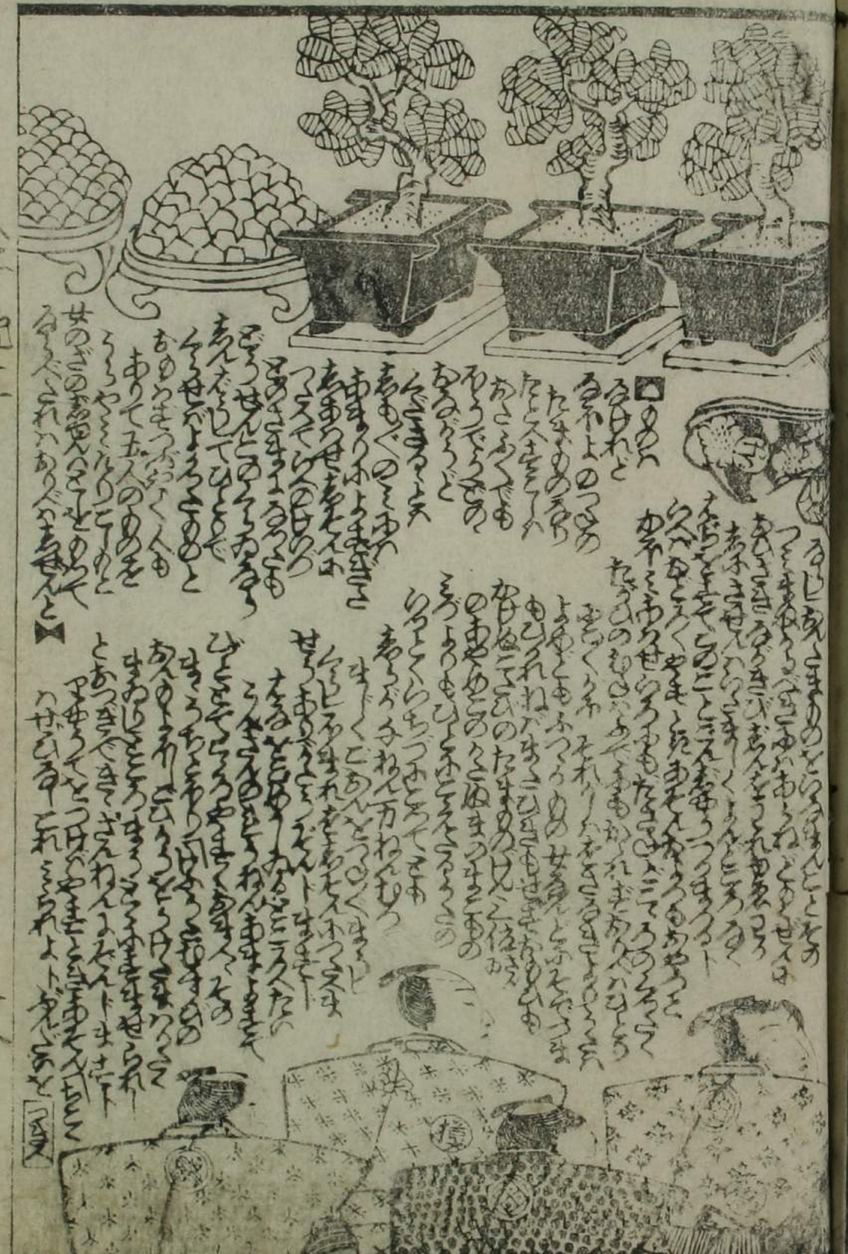
伯

仙果作
國芳画

つぶさに
てあつくかくり
八子林三







仙果述
國芳畫

清書
金川

嘉永四辛未年孟春新鐫目録

根源實紫　笠亭仙果作　一陽齋豐國画　初編二篇　豐春出板

睡郷鬱言　七ツ組子枕　笠亭仙果作　三編四編　一勇齋國芳画

浅間嶽面影草紙　柳下亭種員作　初編二編　一雄齋国輝画

総次郎琴聲美人錄　六編七編　山東庵京山作　一陽齋豐國画

破軍太郎七星奇談　初編二編　同作　同画

闢太郎鈴鹿故語　初編二編　樂亭西馬作　一雄齋国輝画

江戸團扇錦繪草紙和店　芝神明前三島町角　佐野屋喜兵衛板